

問1 IC（集積回路）などの電子部品の輸出において、輸送費が高い航空輸送が多く利用される理由を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2015年 長崎県公立入試 類似）

1. 製品が軽量かつ高付加価値であり、高い輸送コストを払っても短時間で届けるメリットが大きいから。
2. 一度に運べる製品の総重量が海上輸送よりも大きいため、輸出効率が良いから。
3. 海上輸送に比べて輸送中の温度管理や振動対策にかかる費用を大幅に安く抑えられるから。
4. 製品そのものが非常に重く、大型船の積載制限を避けて空路を利用する必要があるから。

問2 1960年には就業者全体の約3割（32.7%）を占めていた第1次産業の割合が、2017年には約10分の1にあたる3.4%まで減少した歴史的・社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 高度経済成長にともない、製造業やサービス業などの第2次・第3次産業へ労働力が移動したため
2. 食料自給率が向上したことで、少ない人数でも国内の食糧需要を十分にまかなえるようになったため
3. エンゲル係数が急上昇した結果、農産物に対する国民の需要が大幅に減少したため
4. 高齢化の進展にともない、定年退職した第2次産業の労働者が一斉に農業へ流入したため

問3 1960年代以降、日本の木材需給において国内生産量が減少し、輸入量への依存が高まった背景として、経済的・社会的な理由を説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2023年 香川公立入試 類似）

1. 貿易の自由化が進んだことに加え、円高の進行によって海外産の安価な木材が市場に広く流通するようになったため。
2. 戦後の大規模な都市開発により、日本国内の森林面積が半分に減少し、物理的に伐採できる木がなくなったため。
3. 日本国内の木材消費が、燃料としての利用から建築用へと完全に切り替わり、国内産の木材が建築に適さなくなったため。
4. 政府が環境保護のために国内での伐採を法律で全面的に禁止し、すべての木材を海外から調達する政策をとったため。

問4 日本の水産業において、いけすなどを用いて魚介類を育てる「養殖業」が普及している理由や、その特徴を説明した文として最も適切なものを選択してください。（2019年 香川公立入試 類似）

1. 自然界の資源変動に左右されにくく、市場の需要に合わせて計画的に出荷することができる。
2. 稚魚を一度外洋に放流して自然の成長を待つため、餌代などの生産コストを低く抑えることができる。
3. 海岸から離れた排他的経済水域の外側で行われるため、沿岸部の赤潮などの被害を受ける心配がない。
4. 網などの漁具を使って一度に大量の天然魚を捕獲するため、他の漁法に比べて労働時間が短い。

問5 長崎市などの都市部で見られる路面電車において、床面を低くして乗り降りの際の段差をなくした車両の導入が進められています。このような、高齢者や障害者を含むすべての人が公共交通機関を容易に利用できるようにする取り組みの名称として、最も適切なものはどれですか。（2024年 愛知公立入試 類似）

1. バリアフリー
2. モーダルシフト
3. パークアンドライド
4. ロードプライシング

問6 沿岸国が、海岸線から一定の距離までの海域において、水産資源や海底の鉱物資源を独占的に管理・開発する権利を持つ水域を何といいますか。また、国際的な条約で定められている、その範囲を示す距離として正しい組み合わせを選びなさい。（2021年 和歌山公立入試 類似）

1. 排他的経済水域（沿岸から200海里以内）
2. 領海（沿岸から12海里以内）
3. 接続水域（沿岸から24海里以内）
4. 公海（沿岸から500海里以内）

問7 栃木県宇都宮市の製造品出荷額等が約2兆円弱に達し、愛媛県松山市や石川県金沢市の約4000億円台という数値と比べて極めて高くなっている理由として、宇都宮市が位置する地域の工業的特徴から説明したものととして適切なものはどれですか。（2017年 香川公立入試 類似）

1. 北関東工業地域に位置し、高速道路沿いの内陸工業団地に機械工業などが集積しているため
2. 瀬戸内工業地域に属し、広大な臨海部を利用した石油化学コンビナートが形成されているため
3. 北陸工業地域の中核として、古くからの伝統工芸を大規模な工場生産へと転換させたため
4. 京葉工業地域に含まれ、原材料の輸入に便利な大規模な港湾施設を中心に鉄鋼業が発展したため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 製品が軽量かつ高付加価値であり、高い輸送コストを払っても短時間で届けるメリットが大きいため。	電子部品はサイズが小さく軽量でありながら、高度な技術が用いられているため価格が高い「高付加価値製品」です。このような製品は、輸送費用が多少高くなったとしても、航空機で迅速に運ぶことで、流行の変化が激しい市場へ即座に供給したり、在庫を抱えるリスクを減らしたりすることが可能です。重量が重いものや価格が安いものを航空機で運ぶと、利益が輸送費で相殺されてしまうため、航空輸送には不向きです。
問2	答え 1 高度経済成長にともない、製造業やサービス業などの第2次・第3次産業へ労働力が移動したため	日本では1960年代の高度経済成長期を境に、重化学工業などの第2次産業や、商業・サービス業などの第3次産業が急速に発展しました。これにともない、農村部から都市部の工場やオフィスへと多くの労働力が移動したことが、第1次産業の就業者割合が激減した主たる要因です。一方で、第1次産業における高齢化や後継者不足といった課題も、この減少傾向に拍車をかけています。
問3	答え 1 貿易の自由化が進んだことに加え、円高の進行によって海外産の安価な木材が市場に広く流通するようになったため。	1960年代から段階的に木材の輸入自由化が進められたことや、為替相場が円高に振れたことで、東南アジアや北米、ロシアなどからの輸入材が国内産よりも価格面で有利になりました。また、国内では林業従事者の高齢化や人件費の上昇により生産コストが増大したため、価格の安い輸入材との競争に敗れ、自給率の低下を招きました。森林面積自体は大きく変わっていませんが、手入れが行き届かない人工林が増加するという課題も生じています。
問4	答え 1 自然界の資源変動に左右されにくく、市場の需要に合わせて計画的に出荷することができる。	養殖業は、いけすの中で魚を管理するため、天然の漁獲量に頼ることなく、サイズや供給量を調整して安定した経営を行いやすいという利点があります。これに対し、稚魚を放流して自然の海で育てる方法は栽培漁業、大型漁船で遠くの海まで行く方法は遠洋漁業と呼ばれます。養殖業は安定供給に寄与する一方で、餌の価格高騰や海洋環境の維持が課題となっています。
問5	答え 1 バリアフリー	高齢者や障害者が社会生活を送るうえで障壁（バリア）となるものを取り除く考え方をバリアフリーと呼びます。路面電車においては、新型の低床車両を導入することでプラットホームとの段差を解消し、車いす利用者や足腰の弱い高齢者がスムーズに乗り降りできるよう工夫されています。これは、持続可能な公共交通網を維持するために重要な施策の一つです。
問6	答え 1 排他的経済水域（沿岸から200海里以内）	国連海洋法条約に基づき、沿岸から200海里（約370km）までの範囲は、沿岸国が漁業資源や鉱物資源に対する主権的権利を持つことができます。日本は島国であり、多くの離島を有しているため、国土面積の約12倍にも及ぶ広大なこの水域を確保しています。
問7	答え 1 北関東工業地域に位置し、高速道路沿いの内陸工業団地に機械工業などが集積しているため	宇都宮市は栃木県の県庁所在地であり、北関東工業地域の中心的な都市の一つです。この地域は、地価の安さや東北自動車道などの高速道路網の整備を背景に、広大な内陸工業団地が作られ、自動車や電気機器などの機械工業が発展しました。そのため、地方中枢・中核都市としての商業的性格が強い松山市や金沢市と比較して、製造業の規模が非常に大きくなっています。